≪課題≫　目的を持ち、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。　非連続テキストを含む資料の内容を読み取ること。　論理の展開をとらえ、段落の役割をとらえること。

H21 全国　B 問題

力だめしパートⅡ　中学校国語３【読むこと】②

このプリントは、全国や大阪府の学力・学習状況調査などで、みなさんが苦手としていた問題を集めたものです。挑戦して、あなたのこれからの学習に役立ててください。

組　　番　名前

堀川さんは、「発光ダイオード」について調べることにしました。次の文章【A】は、堀川さんが読んだ本の一部です。（1から6は、段落の番号を表します。）これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

1 最近、新しい信号機が増えてきたことに気付いているだろうか。これまでの信号機と違い、新しい信号機には小さな粒のようなものがたくさん付いている（写真参照）。この小さな粒は、発光ダイオードというもので、省エネルギーという点などから、近年様々な分野で使われるようになってきた。発光ダイオードは「ろうそくやランプなどの炎」、「白熱電球」、「蛍光灯」に続く、次世代の明かりとして注目されている。この発光ダイオードの特徴について詳しく見てみよう。

2 まずは、消費電力が少ないということが挙げられる。発光ダイオードと白熱電球を比較して考えてみよう。白熱電球は、フィラメント(注)に電流を流して光を発生させている。一方、発光ダイオードは、半導体に電流を流して光を発生させる。その際、どちらも熱が発生するのだが、白熱電球に比べて発光ダイオードの方が、発生する熱が少なくて済み、白熱電球よりも効率的に、電気エネルギーを光に変えることができるのだ。

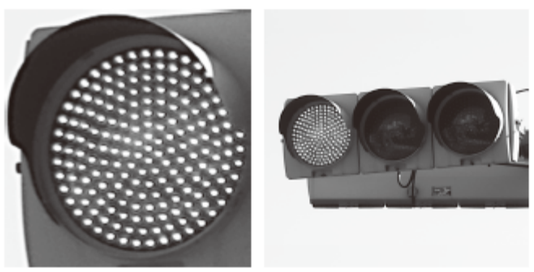
3 次に、小さいということが挙げられる。信号機の写真からも分かるように、発光ダイオードの一つ一つの大きさは、従来の白熱電球に比べてはるかに小さい。この小さいという特徴を生かして、携帯電話の着信ランプや携帯型ゲーム機の光源（バックライト）などに発光ダイオードが多く使われている。

4 これまでの電球式信号機では、およそ一年に一回電球を交換する必要があった。しかし、発光ダイオード式信号機の場合は、六年から八年に一回で済むと言われている。このように発光ダイオードには、寿命が長いという特徴もある。

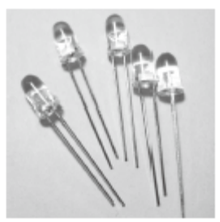
5 最後に発光ダイオードには、カラー発光する（特定の色の光を出す）という特徴がある。朝や夕方などに太陽の光が当たって、信号機が三色とも光って見えるという経験をしたことはないだろうか。これを疑似点灯現象（点灯していないのに点灯しているように見える現象）といい、これまでの電球式信号機に多く見られる現象であった。白熱電球は白色光のため、赤や黄色などの色のついたレンズをかぶせている。さらに反射鏡を利用することで、白熱電球の光を一方向に集め、信号機として使用している。この信号機に太陽の光が当たり反射すると、疑似点灯現象が起こる。一方、発光ダイオードは、カラー発光するので、色のついたレンズを使う必要はない。だから、点灯していない色までもついているように見えることは避けられる。このことにより、発光ダイオード式信号機は、交通安全に役立つという効果が期待されている。

6 電車やバスの行き先表示板をはじめ、町の中や競技場のディスプレイなどにも広く使われるようになってきた発光ダイオード。克服しなければならない課題もあるが、今後ますます私たちの身近な存在になっていくだろう。

【発光ダイオード式信号機】



【発光ダイオード】



＊上の発光ダイオードの全長は約 35 mm, 発光部は約 9 mm。

（注）　フィラメント＝電球・真空管などの内部にあって電流を流し、光や熱電子を放出させる金属の細い線。

一　文章【A】の1段落の役割について述べたものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から**一つ**選びなさい。

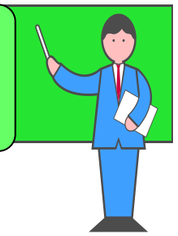
1　多くの具体例を挙げて、自分の考えを読み手に示している。

2　自分の主張を最初に述べ、解決策を読み手に提案している。

3　何について述べようとしているのかを、読み手に提示している。

4　複数の人の考え方を紹介して、読み手の興味を引き出している。

説明文を読むときは、まず、何についての話題が述べられているのか、冒頭部分を手掛かりに、文章全体からつかむようにしましょう。
次に、各段落では何が述べられ、文章全体の中でどのような役割をはたしているのかを考えながら、読むようにしましょう。
さし絵や図等の資料は、本文の理解を助けるものです。本文中のどの部分についてわかりやすくしているのか、資料と文章を対応させながら読みましょう。



※問いはさらに続きます。

二　堀川さんは、発光ダイオードの特徴についてノートにまとめることにしました。文章【A】に書かれている発光ダイオードの特徴を、次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

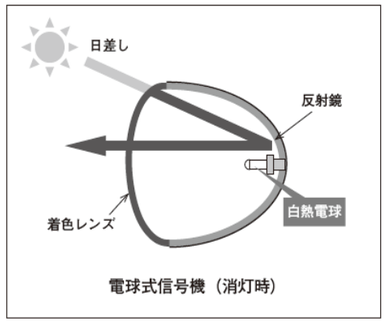
条件1　発光ダイオードが次世代の明かりとして注目されていることが分かる特徴を書くこと。

条件2　箇条書きで三つ以上書くこと。

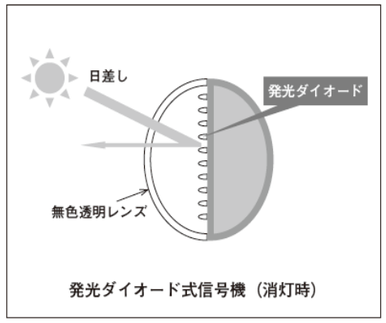
・　・　・　・

三　堀川さんは、文章【A】で説明されている内容でよく分からないことがありました。さらに調べていく中で、右の図【B】を見付け、理解することができました。文章【A】で堀川さんが分からなかったことは何ですか。「～を防げるとはどういうことか。」に続くように、文章【A】の中から**抜き出し**なさい。

【B】



電球式信号機（消灯時）



発光ダイオード式信号機（消灯時）

を防げるとはどういうことか。

H20 全国　A問題

≪課題≫　目的を持ち、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

次は、中国の『戦国策』という本にある話の一部分【A】と、その話についての解説【B】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

虎が森のなかで狐をつかまえ、さっそくムシャムシャやろうとすると、狐がいった。

「これこれ虎よ。わしは、百獣の王として、天からこの森につかわされたものじゃ。そのわしを食うおまえは、天にさからうつもりか？」

虎はどぎもをぬかれたが、まさか、こんな弱そうな獣が王とは思えないので、首をかしげてしまった。

それを見て、狐はつづけた。

「わしのいうことが本気にできないのじゃな。よし、ではおまえは、わしのあとについてきてみるがよい。森の獣たちが、わしに会ってどうするか、よく見とどければわかるじゃろう。」

虎はなるほどと思い、狐のあとにくっついていった。

森の獣たちは虎の姿を見て、みな命からがら逃げだすのであった。狐がとくとくとして、

「どうじゃ、わしをおそれぬものがいるか？」

というと、虎はおそれいって答えた。

「全く、あなたのご威風はたいしたものです。すっかりお見それいたしました。」

（村山孚『中国おもしろ古典詩典』による。）

（注1）　どぎもをぬかれた＝非常に驚かされた
（注2）　とくとくとして＝得意げな顔をして
（注3）　威風＝威厳のあるようす

【B】

当時の中国は、七つの国が天下を争っていた。その中の一つ、楚の国の王様は、強大な力をもっていた。しかし、実質的な指図をしていたのは、王様が任命した宰相（王様を補佐する人）だった。ある日、王様が家臣たちに、

「他の国々では、わたしよりも宰相をおそれているというわさを聞いているが、本当なのか。」

と尋ねた。これに対して、魏の国から来ていた江乙という人が答えるときに用いたのが【A】のたとえ話である。

さらに、江乙はこのたとえ話のあとに、こう言った。

「王様が治めている領土の広さや軍隊の力には、他の国のだれも及びません。王様は、それらをすべて宰相に任せていらっしゃいます。それゆえに、他の国々が王様よりも宰相をおそれているなどというわさも立つわけですが、他の国々が本当におそれているのは、宰相でなく王様の強大な力なのです。」

――線部「【A】のたとえ話」とありますが、江乙は、だれのことを「虎」にだれのことを「狐」にたとえたのですか。次の1から4の中から、最も適切なものをそれぞれ一つ選びなさい。

1　宰相　　2　江乙　　3　王様　　4　家臣

「虎」

「狐」